

OB通信

山口大学体育会ワンダーフォーゲル部OB会

平成11年度7月№1

発行：〒753-0831

山口市吉田1677-1

山口大学体育会ワンダーフォーゲル部
OB会事務局

◎はじめに

そろそろ日本各地で梅雨明けのニュースが聞こえてきそうな季節となりましたが、OBの皆様方におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。3年生以下現役部員たちは、夏合宿に向け慌ただしい日々を過ごしているようです。各自が目標を持って合宿に臨んでくれればと思っています。また、女の子の占める割合が高くなり部内の雰囲気華やかになっているように感じられ、少しうらやましく思います。

さて、今年度のOB会事務局の事務を昨年度主将でありました福山英生が勤めさせていただきます。何かと行き届かないことがあるかとは思いますが、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。尚、OB会についての御質問、御意見等ございましたら下記の連絡先までお願いいたします。

〒753-0831

山口市平井377-2山野井ハイツ201

福山 英生

TEL 0839-20-0574

OB会の活動について

(1) OB総会

平成10年度のOB総会が、平成11年1月16日に開催されました。この総会では、OB会費についての御意見を多数いただきました。OB会費については、今後払込伝票を保存するなどの対策を立て、OBの方々に間違った会費請求をすることが二度とないよう気をつけていく所存です。また、同日行われました追コンにも多数のOBの方々が御出席して下さいました。誠にありがとうございました。本年度も1月上旬にOB総会を開催する予定です。皆様振って御出席下さりますようお願い申し上げます。

(2) OB会費

今年度のOB会費の納入をお願いいたします。尚、1年分納入と、5年分一括納入の2種類ありますので、どちらかでお支払ください。

1年分会費————— 2000円

5年分会費一括納入——10000円

尚、納入先については以下のようになっております。

郵便局：01530-0-016050

山口大学ワンダーフォーゲル部

銀行：第一勧業銀行 山口支店普通1482019

山口大学体育会ワンダーフォーゲル部

尚、郵便局の払込用紙を同封しましたのでご利用ください。

※下記の方は一括納入されているため、払込用紙を同封しておりません。()内の数字はその年度分まで会費を払われているということです。

第5期 秋山邦雄 (20)

第5期 平原稔彦 (11)

第6期 米沢和彦 (13)

第8期 里村州久 (17)

第9期 木村 均 (11)

第10期 益本秀夫 (13)

第11期 仁木明人 (15)

第15期 辻 泰弘 (15)

第20期 東(石井)恭子 (13)

第20期 徳田(原)宏子 (13)

第22期	平野展康 (13)	第23期	天野雅紀 (13)
第24期	勝田(清水)智美 (18)	第24期	箱嶋(橋本)史子 (14)
第24期	松本 勲 (13)	第24期	小林(吉田)美樹 (14)
第25期	吉武(内田)真由美 (12)	第26期	下村和正 (12)
第27期	大宅利之 (16)	第28期	井上久之 (11)
第28期	平井有里 (13)	第31期	椎名研朗 (11)
第32期	東 照美 (13)	第32期	富吉秀記 (11)
第34期	栗山宜之 (13)		

敬称略

(3) 平成10年度会計報告

《収入》 会費 ¥102000
 前年度繰越金 ¥421050
 その他(利子など) ¥234

¥523050(昨年度分会費 ¥104000)

《支出》OB通信、OB名簿作成費 ¥26343
 郵便切手代 ¥69630

¥95973

差額 ¥427077

(4) OB通信

今回のOB通信は、夏合宿の報告を中心に、12月頃の発行の予定です。

2. 新OB紹介

このたびOBとなられた方々を紹介します。

内田 幸子(福岡県)	桑原 孝司(長崎県)	藤原 一章(宇部市)
岡崎 享治(山口市)	高石 豊寿(大阪府)	渡部 玄(山口市)
國清 順一(山口市)	野口 千恵(佐賀県)	

敬称略

以上8名の方々です。皆様の益々の御活躍をお祈りします。

3. OB名簿

今年度のOB名簿を作成しましたので同封いたします。付録として現役部員の名簿も付けましたのであわせてご利用ください。尚、記載に誤りがありましたら事務局までご連絡ください。

また、この名簿には空欄が多く、これらの方々にはOB通信を送れない状況にあります。同期または同地域の方でご存知の方がいらっしゃいましたら、御一報下さります様お願い申し上げます。

4. 執行部紹介

今年度の執行部の役員、係を紹介します。

- ・主将、トレーナー(オッチェン)：有馬 啓介
- ・副将、山技、装備：姫野 康平
- ・主務・渉外、エッセン、記録図書：河名 尚子
- ・会計、気象、衛生、トレーナー(メッチェン)：大宅 貴子

敬称略

98春合宿報告

サイクリング Party

春合宿サイクリング Party は沖縄一周というハードなコースを立てました。途中 P-men のケガやいろんな問題が生じましたが、皆の協力で何とか出発までこじつけることができました。1日目は、自転車の準備や故障でかなりまいりましたが、残波岬の海の輝きを見て、本当にここは日本なのかと感激しました。また、途中の売店のおばさんから差し入れをいただき、沖縄の人たちの温かさにも触れることができました。(おばさんの話だと、僕たちのみずぼらしい格好を見たら何かしてあげなければいけないと思ったそうです) 2日目、3日目は、とても天気良く、皆真っ黒に日焼けをしました。屋我地ビーチでは、僕は疲れて寝ていましたが、他

のP-menは海で泳いでいました。本当に頼もしい奴らです。4日目は、合宿最大の目玉かつ難所であるヤツルの森を抜けるコースでした。道はとても綺麗でしたが、アップダウンが激しく、中には3kmくらい登りが続いた坂もありました。しかし、サイクリングには坂を必ず登りきる(足をつかない)という鉄則があったので、皆必死で登りつづけました。

この合宿は、残念ながら5日目にエスケープとなりました。しかし、実質4泊5日で沖縄を一周したP-menを誇りに思いますし、沖縄の大地と人々の心に触れることができ、本当にいい旅ができたと思います。来年もぜひサイクリングをやってほしいものです。

PL 緒方 秀次

九重 Party

○3/21 アプローチ(くもり時々雨)

前日に九重連山は季節はずれの雪に見舞われ、東方翻山にまで雪が降りました。合宿はそんな不安の中出発しました。キャンプ場につくと白い三侯山が私たちを出迎えてくれました。

○3/22 沈(雪のちくもり)

この日は早朝から雪が降り続き、辺り一面銀世界となりました。私たちは長者原を散策して楽しみました。

○3/23 (快晴)

この日の朝は一番の冷え込みとなりました。ポールに氷柱ができ、ポリタンの水の表面が凍りました。九重の夜は毎日本当に寒く、とてもつらかったです。

三侯山はまだ白かったのですが、出発することにしました。雨ヶ池までの登山道にほんの少し雪が残っていましたが、後は完全に溶けていました。法華院温泉に着いてから、平治岳をピストンしました。時間がなかったので平治岳手前の南峰で引き返す羽目になったのが残念でした。

○3/24(くもりのち雨)

この日は久住山・中岳に登りました。途中で御来光が見れたのが感動的でした。くもりでしたが、阿蘇山を望めるほど展望は良かったです。山頂は風が強く寒すぎて、休んでいただけませんでした。北千里ヶ浜で少し雨が降ってきました。

○3/25(くもり)

久住山・中岳の方はガスっていましたが、大船山はなんとか展望に恵まれていました。大船山のピークではのんびりすることができました。そして、ピーク直下の御池にも足を運んでみました。静かで神秘的ないい池でした。

○3/26 沈(雨)

○3/27 沈(雨)

ワンゲルに入ってから初めての3沈でした。そのため4日目の行程の三俣山に行けなくなってしまいました。三俣山はどこからも見えていただけに悔しかったです。

○3/28(晴れ)

この日も冷え込んだため、途中までカチカチに凍った山靴で歩く羽目になりました。風穴では皆穴の中に入り、記念写真を撮ったりして遊びました。そこから黒岳(高塚山・天狗岩)をピストンしました。天狗岩がなかなかいいところでした。そして、七里田温泉へ下り、無事合宿を終えることができました。

今回の合宿は、天候に悩まされたものの、九重山を満喫することができ、とても楽しいものとなりました。これもひとえにP-menのおかげだと感謝しています。

PI 立石 広美

屋久島 Party

3年間のワンゲル活動の締めくくりの場として、屋久島を選びました。ここ数年、屋久島で春合宿を行うのは無理だといわれてきました。その理由として、雪の問題がありました。現在の部則では、雪上訓練以外の雪山山行は禁止されているため、多くの積雪があるといわれる屋久島は敬遠されていたのです。しかし、何とか現在のマンネリ化した合宿を打破したいという思いを抱いていたため、屋久島という山域に挑戦しました。やはり、屋久島という山域からか安対も厳しく、合宿出発までの準備は大変でした。それゆえに、出発のときは喜びもひとしおでした。電車と高速バスを乗り継ぎ鹿児島に着いたときはまだ夜明け前、鹿児島港にはひんやりとした空気が漂っていました。この日は快晴、はやる心を押さえ、フェリーに乗り込みました。約4時間後、真っ青な海原に屋久島が姿を現しました。屋久島の山々は標高以上に高く感じられました。この日は、アプローチなことが口惜しいほど晴れ渡っていました。次の日は、合宿1日目、昨日予約していたタクシーで白谷雲水峡へ向かいました。朝のうちは晴れていたため南国といえど少し寒いくらいでした。この日は、白谷雲水峡周辺をゆっくり散策し、屋久島の大自然を満喫しました。屋久島では現在、基本的に幕営が禁止されているため宿泊は避難小屋となりました。テント泊とは違い、いろいろ気を使うことも多いですが他の登山者とのふれあいとその時にお互いの持っている情報を交換し合ったりして、今回の合宿ならではの経験もたくさんしました。2日目は、小雨の中ウィルソン株や縄文杉をたずねる行程でした。この日は新高塚小屋まで行く予定でしたが、雨が激しくなったこととP-menの一人がぼててしまった事で、旧高塚小屋までしか行けませんでした。新高塚小屋まで行けなかったことで、宮之浦岳に行くことが難しくなっていました。また、この日から屋久島地方に停滞前線が停滞し、時折激しい雨がふりまし

た。ラジオの天気予報で天候は回復しそうにないということを知り、また P-men の様子なども考慮して、宮之浦岳への登頂を諦めエスケープすることにしました。結局この合宿もエスケープとなってしまったのですが、屋久島で春合宿が行える手応えはしっかりつかむことができたと思います。来年も是非屋久島に挑戦してほしいと思います。

PL 福山 美生

サバイバル Party

鹿児島県三島村薩摩黒島において、今年のサバイバル合宿は行われました。今年のサバイバル合宿において例年と違うのは、主食となっていた米を持っていかずに、水・塩以外のものを自給すると言う点でした。この合宿は3泊4日で行われましたが、この短い期間にもかかわらず、合宿としてはかなりだれたものとなってしまいました。自分は3年間サバイバル合宿を経験しましたが、やはり野性の山羊や牛を殺すぐらいしないと、心もお腹も満たせるサバイバルは無理なようです。今年のサバイバルの釣果は、たったの3匹でした。その分、皆は食べられる野草を一生懸命探し、ワングルのしきたり上アク抜きもせずしぶしぶ食べていました。あの野草の水炊きのまずさは、忘れることのできない苦い思い出となったことでしょう。また、人間というものは、たった4日まともな食事をとらないだけで、動作も、思考もすごく鈍くなるのがわかりました。この合宿は、科学的実験として行っていたなら、すごく有意義なものとなっていたでしょう。しかし、私たちはスリルを求めてこの合宿を行いました。結果はどうであれ、この合宿に参加した者は、普段の食事の有り難さが身に染みてわかったことでしょう。

PL 吉村 友則

第3.8期執行部を終えて

今年3月をもちまして第38期執行部も何とか無事やり遂げることができました。これも、多くの御助言をくださった先輩がたのおかげと感謝しております。昨年1年間を振り返ると、現在ワングルは過渡期にさしかかっているのではないかと思います。部を構成している部員の質も変化してきており、人と協力して物事を成し遂げるより自分のやりたいことを徹底して追及する人間が多くなっているような気がします。そのため、部員同士の人間関係が希薄となり飲み会その他の部活動以外のイベントへの積極的な参加が見られなくなりました。ワングルと私生活を切り離して考える部員が増えてきたのだと思いますが、あまり度が過ぎると部を運営してい

いく上で支障が出てくるのではないかと心配しています。私たちが1年生のころは毎週のように飲み会を開き、時には七夕祭の仮装パレードにも全員で参加し商店街をトランクスいっちょで体中にペインティングをして歩いたことも有ります。今となってはどれも良い思い出で、後輩たちにもこのような思い出をたくさん作って行ってほしいものです。

また、昨年末あたりから、中四合ワゴンにおける飲酒について外部団体の干渉が目立ってきました。御覧になった方も多いと思いますが、朝日新聞と毎日新聞に中四合ワゴンで行われている飲酒に対して批判的な記事が載りました。これは昨年の主管校であった島根大学から「中四からイッキ飲みをなくす会」という団体が結成され、イッキ飲みをなくす運動をしている市民団体と協力して活動をした結果です。私自身も毎日新聞の取材を受けました。今年度の主管は山口地区だったのですが、この問題は主管1大学の手におえるようなものではなく、中四連盟全体で考えていかなければならない問題であると思います。先日主管を辞退しました。そして、あまりにも外部からの干渉、監視が厳しいため思うように動けないということも大きな理由でした。今現在、連盟全体で今後の中四合ワゴンの方向性を話し合っているところです。私としては、自らの意思ではなく、外部からの干渉と圧力によって主管を降りたことが残念でなりません。それ以上に、外部に漏れる前に連盟の中で問題を解決することができなかったことが口惜しくてなりません。今後、合ワゴンがどのようなようになっていくのか見守っていきたいと思います。

以上述べましたように、今ワングルを取り巻く環境は大きく変わりつつあります。このような時代の中で、主将として適切な舵取りができたのかどうか疑問が残ります。この厳しい時代を後輩たちが乗り切ってくれることを願い、執行部の報告を終わりたいと思います。

第38期執行部主持 福山 美生

第39期執行部近況報告

野山の緑も日々色濃くなり、汗ばむ陽気が続きますが、OBの皆様方におきましてはますます御健勝のことと御慶び申し上げます。

さて、今年度の新歓のシーズンも終わり、第39期執行部もようやく夏合宿に向けて本格的に動き始めました。昨年度は部員数が減少し、8名の先輩方が御卒部され、幹部交代もあり、寂しい思いもする事も有りましたが、今年度は、新入生が9名入部し、いまBOXやトレーニング、講習会は活気にあふれています。部員数は、四年生7名、三年生4名、二年生5名、一年生9名の計25名です。そのうち18名が現役部員ですから、半数が一年生ということになります。一年生が多いということは、何かと大変ですが、それは贅沢な悩みという

ものであって、この苦勞がいつかは大きな喜びとなる日が来ることを信じて、執行部としても下級生の指導に全力を注ごうと思っております。

申し遅れましたが、私は主将兼トレーナーを務めております、人文学部人文社会学科三回生三年有馬啓介と申します。三年生には他に副将の姫野康平、主務・渉外の河名尚子、会計の大宅貴子がいます。すでにお分かりのように、三年生全員が執行部員ということですが、まだ始まったばかりですが、私は他の執行部員を愛(?)していますし、信頼もしています。それが高くなればなるほど期待というものも膨らむでしょう。「Boys be ambitious」ではありませんが、そういった気持ちは執行部員全員が持つべきものであります。ワンダーフォーゲル部において三年生の存在は大きなものであり、よって1.2年生には予想もできない悩みを持つことがあるでしょう。そんな時ワンダーフォーゲル部の本当の喜びや楽しみを見失いがちになります。私たちは、一・二年生を指導し、部活動を満喫させる義務があります。同時に自分たちも満足行くまで楽しまなければならないと思っています。上級生の充実したすがたを見てこそ、下級生も本当の喜びを味わうことができるに違いありません。

三年生になって、よく私は「この四年間は人生においてどういった意味をもつのであろうか」と考えます。どんな意味をもってもいいと思います。ただ卒業して皆様方のようにOBの仲間入りをして、「あの頃は最高だったなあ」と酒でも飲みながら友と語り合えるような四年間にしたいと思います。しかし、「あの頃はよかったなあ、でも今もいいぞ」と言えるような将来を創造する事も私の理想です。

6月には一次錬成、そして二次錬成があります。そして、夏合宿。二ヶ月後の自分に会うために、私たちは日々汗を流しています。

第39期主将 有馬啓介

第35回県内合同ワンデリング

○実行委員長より

例年ゴールデンウィークに開催される県内合同ワンデリングも、今回で35回目を数えました。今年は前々回と同じく、佐波郡徳地町少年自然の家グリーンスポーツ広場が開催地となりました。この場所を選んだ理由としては、テン場から割と近いところに日暮ヶ岳という標高694mの山があることと、テン場にトイレと水場、炊事場が備わっていたということがありました。昨年9月頃から準備を始め、調査Wにも何度も行きました。今年の主管が山口大学本部と山口県立大学ということで、毎回山大BOXと県大BOXと場所を交代しなが

らの話し合いは結構大変でした。また、緊急対策を作る上で一番困ったのが、ドライバーの事に関してでした。自分たちの代は車を持っている者が一人もいないということで何かと不便でしたし、上級生の方々にもかなり頼ってしまう形にならざるを得ませんでした。そして、山大・県大合わせても三年生が8人しかいないということで、本部役員にも4年生の方の力を借りなければなりません。この先輩方に手伝って頂くという点が、実行委員長として一番神経を使ったことで、準備段階で何か不備が合っては、慎重に事を運んだつもりです。この県合は、就職活動または研究室などで忙しい時間を裂いて手伝ってくださった先輩方の御協力がなければ成立ちませんでした。本当に感謝しています。

今年のゴールデンウィークは1日から5日までという長いものでしたが、1日土曜日から3日月曜日までの2泊3日で行いました。新入生は山口大学本部が7人、山口県立大学が1人の計8人で、上級生が山口大学9人、山口県立大学6人、山口大学工学部2人、宇部短期大学1人、宇部高専3人で、全参加者は29人でした。県内ワングルの部員数が減少しているので、この県合の参加者数も減少しているのが現状です。初日は防府駅に集合した後、バスで開催地まで移動し、開会式、テント設営、装備振り分けを済ました後、エッセンまで交流を持ってもらう機会を設けました。お互いの名前を覚える判子屋さんゲームをはじめ、様々なコールが飛び交っていました。そんな光景を本部役員として冷静に見ているのも結構楽しかったですが、内心自分も一緒に輪の中に入って騒ぎたいという気持ちもありました。2日目は日暮ヶ岳への山行、運動会、ファイヤーと参加者の人にはハードな1日でした。この日の天気は最高に良かったので、参加者は皆意気揚々とテン場を出発し、二日酔いの人に合わせたゆっくりとしたペースで、何度か休憩を取りながら山頂を目指しました。山頂で昼のエッセンを取り、さわやかな空気を思う存分吸ってテン場に帰ってきました。帰ってきてすぐに新入生の一人が、山が最高に綺麗だったと感動していたのを見て、山のすばらしさを感じてくれたのかと心から嬉しく思いました。その後、Party対抗の運動会が大声援の中行われました。風船割競争や、7人8脚など、どの競技も思いのほか白熱していました。集中食を食べ、いよいよ県合最後のビッグイベントであるファイヤーに移りました。昼間参加者が山に登っている間に必死で積んだ枕木に灯油をかけ、トーチに火をつけて、火の神の登場とともにファイヤーは始まりました。分火、点火の儀式も無事終え、ファイヤーパパ、ママの司会のもとに各大学ごとのスタントが行われました。各大学伝統のスタントを披露してくれましたが、かろうじて守っているという感じがして、少し寂しかったです。ファイヤーが無事終わると、この日は特に就寝時間を設けていなかったため、皆思い思いの夜を過ごしていたようです。お酒を飲むところもあれば、恋の話に没頭しているところもありました。

昨年の9月から半年以上県合の準備に取り組んできたわけですが、その間には様々な事がありました。最近ではお酒の飲み方について外部からの干渉も目立つようになってきて、今回の県合でも何回も話し合いました。結局お酒の飲み方に関して制限は設けませんでした、

実行委員長という立場上、内心ひやひやものでした。しかし、後輩に酒を強要したり、無茶する人もいなかったのも、実際は取り越し苦労だったと言っても過言ではなかったと思います。

自分は半ば挑戦するような気持ちで実行委員長を引き受けたわけですが、時には周囲の人間が非協力的に見えて、一人で何もかも背負っているような気になっているようなこともありました。でも、それが自分の勝手な思い込みであると気づいたとき、自分の余裕のなさを情けなく思うとともに、他の仲間に対しても申し訳なく思いました。この県内合同ワンデリングを通して県立大学の人たちとも友達ではなく、仲間になれたような気がします。この県内合同ワンデリングは、自分にとって一つの通過点にすぎませんが、時には辛い思いをしながらやり遂げることができたということは、大きな財産になったと思います。代々続いてきたこのイベントを絶やすことなく、ますます発展させていってくれることを次の代の人たちに期待します。

第35回県内合同ワンデリング実行委員長 河名尚子

〇BLさんより

私はこのたびの県合でBLを務めさせていただきました。はじめはBLとして県合を盛り上げていけるのだろうかかと心配でしたが、本番では各PLさんをはじめ、皆が盛り上げてくれたので、とても賑やかな県合となりました。2日目の山行後に行った運動会は思いのほか盛り上がりました。私は、県合や中四で運動会のようなものを行ったことがなく、どちらかといえば皆がシラけてしまうというイメージを持っていました。そのため、運動会の内容については県立大のBLさんと時間をかけ、何とか盛り上がるものになるよう知恵を出し合いました。その結果、優勝したPartyには、肉と卵をプレゼントして集中食がリッチになるようにしました。そのせいか参加者たちの気持ちは燃え上がり、運動会は白熱したものとなりました。最下位のPartyには唐辛子で嫌がらせをしようと思ったのですが、意外と喜ばれてしまい失敗に終わりました。

そして、最も盛り上がったのがファイヤーでした。山大のスタんツは、例年どおり山口ボンボンを踊りました。やはり、1年生はまだマスターしていないようでしたが、いい具合に酔っ払っていたので楽しそうでした。

以上が今回の県合のほんの一部です。参加者全員が楽しんでくれたようで、BLとして本当に良かったと思います。また、3日間天気もよく、思い出に残るゴールデンウィークとなりました。

平成 11 年度夏合宿コース紹介

○姫野 Party より

平成 11 年度夏合宿南アルプス Party の PL を務めます姫野康平です。

コースは、奈良田から入山し、農鳥岳、間ノ岳、北岳の白峰三山を縦走した後、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳をピストンします。6泊7日で総コースタイムが36時間、うちピストンが14時間です。

このコースの見所はやはり白峰三山の縦走だと思います。前方に岩肌が荒々しく男っぽい甲斐駒ヶ岳、南アルプスの女王と呼ばれる仙丈岳、後方に日本の山富士山、足元にお花畑を見ながらの稜線歩きは今から楽しみにしています。奈良田から農鳥小屋までの最初の2日間に2000mアップがあり、かなりきついとは思いますが、夏合宿としてはちょうどいい強度だと思います。

Party の構成は、3回生が PL の自分と会計の大宅、2回生が3人、1回生が5人で計10人 Party になる予定です。10人 Party のためテント生活など心配な点がありますが、泊りがけのP-Wなどを行って、合宿までに1つずつ不安を解消しながら、気合を入れて頑張っていこうと思います。

PL 姫野 康平

○河名 Party

昨年、一昨年と夏合宿は3 Party でしたが、今年は上級生の人数が少ないことや、マッチェンのワンゲル内で占める割合が高くなってきていることを考慮して、2 Party で行くことに決定しました。現在、現役部員が18名ということで、北アルプスが8名、南アルプスが10名という大所帯です。個人的には、6~10人 Party がベストだとは思いますが、2、3年生が9人しかいないのに対して、1年生が9人入部したということで、今回の場合2 Party にするのが最善だと判断しました。今回の夏合宿のコースを立てる際に注意したのが、エスケープが切りやすいかどうかということと、何より自分が情熱を燃やせる山があるかということでした。具体的なコースを紹介しますと、折立から登って、黒部五郎岳~双六岳~槍ヶ岳~西岳~大天井岳~常念岳までの6泊7日です。自分は1年生の時に、西岳~槍ヶ岳~双六小屋までは行ったことがあるのですが、このコースには東鎌尾根、西鎌尾根という難所があります。はじめて行ったアルプスでいきなりの鎖場や梯子の連続だったので以上に怖く感じたのかもしれませんが、連れて行く立場になった以上、慎重に慎重を期さなければと思っています。このコースで個人的に楽しみにしているのが、黒部五郎の

カールと、槍ヶ岳、常念岳ピークからの展望です。1年生の時は悪天続きでほとんど展望は望めなかったのですが、今年こそは北アルプスの雄大な山並みを是非見てみたいと思います。

PLとしてP-menの安全を確保するのは当然の義務ですが、その当然の義務を全うすることが一番難しいことだと思います。緊急対策を万全にしたり、合宿のコースを完璧に把握したとしても、事故の可能性がゼロになるわけではありません。常に危険が伴うことを忘れずにいようと思います。個人の目標としては、そういったシビアな面も備えつつ、P-menを楽しませてあげられて、かつ信頼されるPLになることです。皆を楽しませようと思ったら、まず自分が心から楽しもうという気持ちがないと駄目だと思うので、何事も前向きに考えていこうと思います。ワングル生活3年間の中で最高の思い出となるよう、がんばります。

PL 河名 尚子

○編集後記

何とかOB通信を発行することができました。今回も現役部員の活動報告を中心に紙面を割きました。OBの皆様方に現在のワングルが少しでもお伝えすることができたのなら幸いです。このOB通信が現役部員とOBの皆様方とを結ぶ掛け橋のような存在になればと考えています。そのためにも次回のOB通信ではより一層の紙面の充実を図っていこうと思います。

私事ですが、この夏私は赤石岳に登ろうと考えています。これは、ある2年生が誘ってくれたからなのですが、このことは私にとってもものすごくうれしいことでした。何より嬉しかったのが、昨年今頃、泣きながら私に退部を申し出てきた彼が、今では前向きに頑張っている姿を見せてくれたことです。そんな彼の姿を見ていると、私の去年1年間は無駄ではなかったと思います。今私は、その彼と夏の赤石岳目指して自主トレに励んでいます。OBの皆様方と山の上でお会いできる日をお待ち申し上げます。

これから日に日に暑さが増してきますが、皆様にはどうかお体にお気をつけてお過ごしください。

平成11年7月 福山 英生